

**Ph. D.は取ったけれど：  
Ph. D.取得後のキャリアパス  
と就職活動**

**渡部宏樹**

**University of Southern California,  
School of Cinematic Arts,  
Cinema and Media Studies, Ph. D. Program**

そもそもアメリカや海外の大学で  
Ph. D.を始めとする学位をとっ  
たらどんないいことがあるの？

# 1. 英語が必須の国際的な高度専門職につける

- アメリカや国際的な組織は学歴社会で大学院レベルの専門教育が、専門職につくための最短ルートになる。
- 日本社会は学歴というよりも「学校歴」社会。（アメリカにそういう要素がないわけではないが・・・。）

# 2. 日本でのアカデミック就職に有利

- 国際大学ランキング上位に食い込むために大学の国際化を推進
- 東大のProgram in English at Komabaなど
- 英語「で」授業ができる教員が求められている

# 3. 海外の労働環境で働ける

まとめトップ > カテゴリ > 仕事 > キャリア > 転職・転職 編集可能 4月12日

## 給与が段違い 一橋大から香港科技大に移ります

一橋大学経済学研究所から香港科学技術大学ビジネススクールへの異動を決めた経済学者@mixingale氏がその理由を語る

グローバル化 研究者 nkust 転職 経済学 香港科学技術大学 国立大学 ジョブマーケット ヘッドハンティング

Kelangdbn 342545view 149コメント 2710 B! 829 f 3821 お気に入り

294

旅の準備は、今がチャンス。 アメリカン・エクスプレス®・カード ご入会特典 初年度年会費無料 本バナーからお申し込みの方限定 詳しくはこちら

まとめ メニュー

Kohei Kawaguchi @mixingale 2017-04-12 15:22:30  
四学期制で五限目の開始時間が17:10になったことで、この時間に開催されているセミナーに乳幼児を抱える研究者の出席が難しくなった。4限以前の時間は他の授業に出席している学生がいるため、セミナーの時間を4限以前に動かすのも難しい。

Kohei Kawaguchi @mixingale 2017-04-12 18:52:20  
今日の教授会で報告したので公表しますが、実は、今年度の春夏学期を最後に8/1付けで一橋大学経済学研究所から香港科技大学ビジネススクール経済学科に移籍することになりました。ランクは今と同じテニュアトラックAssistant Professorです。

Kohei Kawaguchi @mixingale 2017-04-12 18:54:49  
香港科技大は近年シンガポール国立大学の後塵を拝しつつあるものの長らく経済学ではアジア太平洋地域のトップ校で、大学総合ランクでも2015年のTHEでは東大を上回っています。とはいえ、研究環境面で一橋が特別負けているとは思いません。じゃあ何が違うのかというと、あれですね、給料です。

- <https://togetter.com/li/1100145>
- 634万円⇒USD144K（日本円で1500万円）
- 必ずしも一般的ではないが、だいたい傾向としてはこんなもの。
- 少ない給料でパワハラや過労死はちょっとなあ・・・。

1. 英語が公用語の高度専門職につける
2. 日本でのアカデミック就職に有利
3. 海外の労働環境で働ける

と、このようないいことがあるわけですが、そのためにはクリアしないといけな  
いハードルがあります。

ノウハウが蓄積されている  
入試はみなさんならどうと  
でもなります。(このあと  
の座談会で具体的なアドバ  
イスもするし・・・。)

ビザ、労働許可、就職活動と  
いったPh. D.や他の学位を取  
得した後ので口戦略について、  
も今から多少なりともリサー  
チしておいたほうがいいです。



# Ph. D. (or学位)

## 取得後のオプション

	アメリカや海外で	日本で
アカポスに就職	テーマ1	テーマ2
民間に就職	テーマ3	想定される可能性が多すぎて一般化できない。
公務員になる	国際公務員になるにはJunior Professional OfficerやYoung Professional Programを受験	そもそもみんな官公庁から派遣で来ると思うのでパス。

# 覚えて帰って欲しいこと

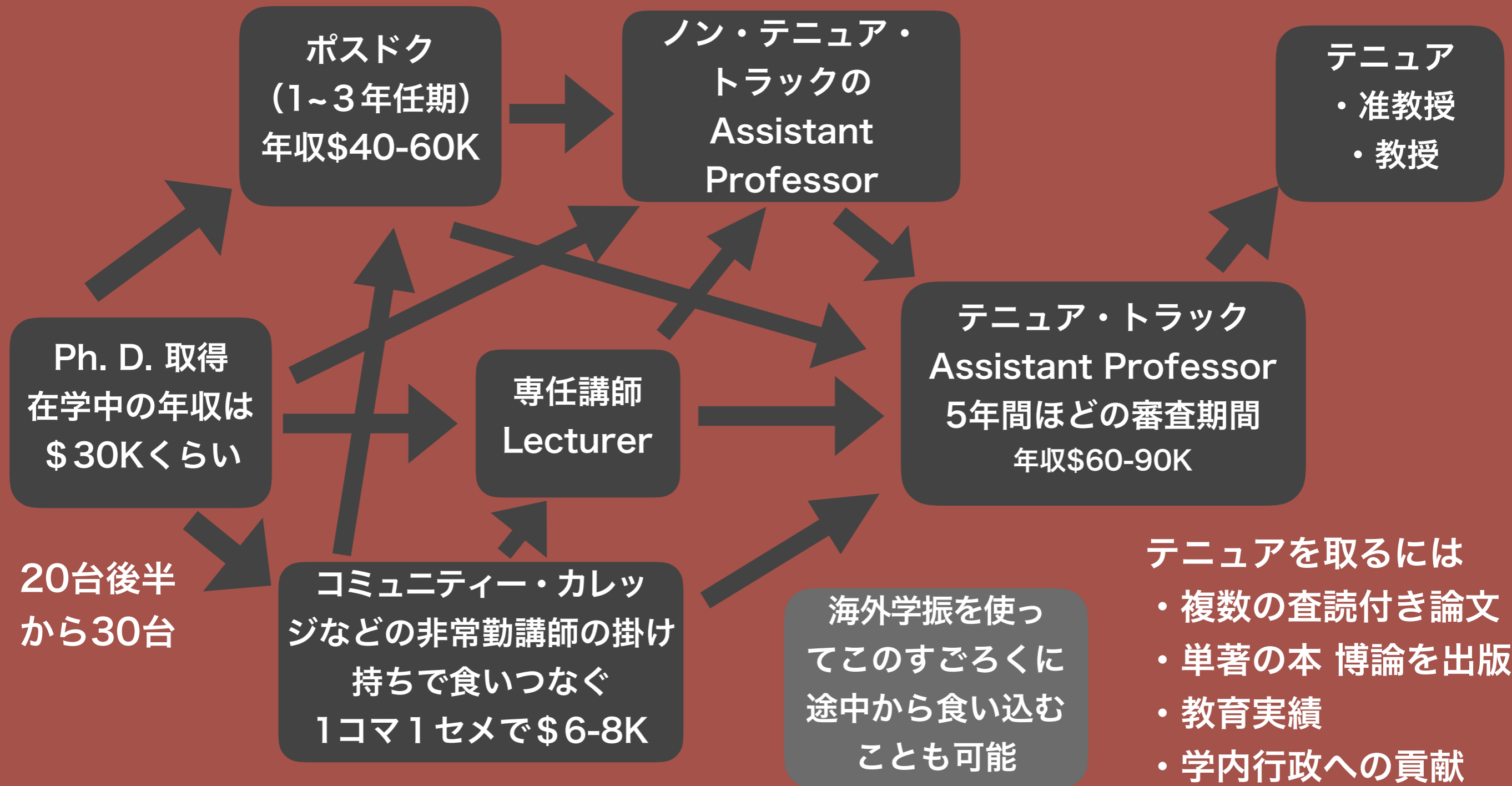
- **アメリカのアカポスにつきたい人**：常勤に就くまでのルート、提出する書類、「ジョブ・トーク」
- **日本のアカポスにつきたい人**：アメリカのPh.D.課程にいたただけでは日本のアカポスに着くのに求められる条件を満たせない可能性があること
- **アメリカと日本のアカポスの両方を天秤にかけている人**：両国の就職で求められるものが違うこと
- **アメリカの民間企業に就職したい人**：さまざまなビザの種類、Optional Practical Training、グリーン・カード

# 注意事項

- 自然科学、社会科学、人文科学、専門職系で数字やプロセス、条件はことなるので自分で調べる。
- ビザや法律の規定なども変化すること、説明が正確でない部分もあるのでその点は悪しからず。
- なので、自分に関係のあるキーワードをメモって帰って、自分でググったり、同じディシプリンの先輩に聞いてみてください。

アメリカや海外でアカ  
ポスに就職

# テニユア（終身在職権）すごるく



私の指導教官曰く、このすごるくを上がるまでの年数がUSC  
Cinema（分野別ランキング1位）で平均7年から10年

# Ph. D.取得後の就職活動（す ごろく2コマ目）に必要な物

- Cover Letter：希望の職と自身の能力がどうマッチするかを説明する。
- Academic CV：履歴書+業績一覧。アメリカの人文系の場合は出版は全く重視されない。だが、コミュニケーション研究では毎年一本の出版が求められたり分野によってかなり違う。理系ではもちろん違うと思う。
- Sample Writing（ポスドクの場合）：博論の1チャプター。
- Teaching Philosophy：教師としての資質が問われる。（学生による授業評価を求められることも。）
- Research Statement：勤務先でどんな研究をするのか。
- Dissertation Abstract：博士論文の研究内容
- Recommendation Letters

# カレンダー

- 常勤職、ポスドク、非常勤の口の順で早く募集がかかる。Assistant Professorなどの場合は2018年秋学期開始の職の募集はもう始まっている。その後ポスドクの募集が10月から2月ごろにあり、3月から4月ごろに決まる。非常勤の募集は直前の夏休みに。
- 書類審査や電話面接で生き残りファイナリストになったら、ジョブ・トークに呼ばれる。

# ジョブ・トーク

- Assistant Professor以上の採用にあたっては、候補者をキャンパスに招いて審査を行う。だいたい3人から4人。
- 現在の教授陣とのランチやディナー、ディーンとの会食、在籍大学院生とのランチ、関係者の前での研究発表と質疑応答などを、それぞれの候補者ごとに1日かけて行う。
- 交通費、宿泊費は大学が支払う。
- 単に研究の内容だけではなく、立ち居振る舞いや人格なども見られる。



# ビザ問題

- Assistant Professor以上やポスドクなら大学がビザを出す。
- 非常勤の職を掛け持ちする場合は、どの大学もビザ（や保険など）をだしてくれないので自分でなんとかしないといけない。
- 文系のPh. D.取得者の場合は12ヶ月のOPT期間があるので、その間はアメリカで合法的に滞在できるが、つまり一年しか再チャレンジの期間はない。そのためPh. D.課程にもう一年在籍するというチョイスをする留学生は多い。アメリカ人も。
- アメリカ人と結婚したり、くじ引きでグリーン・カードを当てていると楽になる。

日本でアカポスに就職

# テニユア・トラックに乗るまで

- アメリカでの就職の場合同様、20台後半から30台半ばくらいにPh. D.を取って常勤職をえるまでどう食い繋ぐかが問題。
- 人文系の場合は非常勤で語学教師をしながら食いつないで、どこかの安定した専任講師につき、業績を積み重ねるパターンが多い
- 英語「で」教えられるというのは有利。（大学の国際化）
- ただし、最初の語学教師としての就職の段階では単にTOEFLなどを教えられる技能だけがもとめられているようでもある。（もちろん理系は別。）

# 就職活動に必要な物

- 人文系の場合、査読付き研究論文3本（外国語含む）
- 日本の大学での教歴（アメリカの大学でのTA経験は教歴として判断されないことが多い。）
- この二点がアメリカと日本での人文科学系の就職に必要なものの大きな違い。どちらを希望するかによって計画的に準備が必要。
- 理系の場合、他のディシプリンのばあいも日本とアメリカで就職するのに必要な準備が違はずなので博士課程在学中に調べておく必要がある。

# アメリカや海外で民間 に就職

# ビザ問題

- 研究室の繋がりや、インターンなどでアメリカでの民間就職のルートはさまざま。
- ここでは最大の問題であるビザについてお話しする。

# Ph. D.在学時のビザ

- Fビザ：通常の学生ビザ
- Jビザ：研究者交流ビザ、フルブライトはこれ。フルブライターは留学終了後の帰国義務があるが、就職がうまくいって就職先の先生に一筆書いてもらえればどうにかなる（らしい）。フルブライトではないJビザには帰国義務はない。
- 卒業後のOptional Practical Training期間が12ヶ月ある。
- STEM系の人にはOPT期間が+24ヶ月。
- このOPT期間を単純に卒業後の経験積みに使ってもいいし、次の本格的な就労ビザをゲットするための準備期間にあててもいい。

# H1Bビザ

- 基本的な就労ビザ（基本3年最長6年）
- 自分の学位と関係がある「プロフェッショナル」な仕事についていなければならない。（芸術系だとOビザというチョイスもある。）
- 基本的には職場がスポンサーになってくれる（ようによろしく）。
- その業界での平均以上の収入がないとダメ。
- トランプ政権下で締め付けがきびしくなる見込み。「トランプ政権下での移民法の行方」 ([http://openlegalcommunity.com/summary\\_immigration\\_webinar](http://openlegalcommunity.com/summary_immigration_webinar)) 参照。



# グリーン・カード

- アメリカに骨をうずめるとなったときにとる永住権。
- 一番楽な方法はシティズンとの結婚
- 次はロタリー（ダイバーシティ・ビザ）で当たるのが楽。
- 博士号取得者の場合EB1（世界レベルの並外れた才能）、EB2（傑出した教授、研究家）枠などでスポンサーなしでビザを獲得し、それに付随するグリーン・カードを取得することも可能

# 覚えて帰って欲しいこと

- **アメリカのアカポスにつきたい人**：常勤に着くまでのルート、提出する書類、「ジョブ・トーク」
- **日本のアカポスにつきたい人**：アメリカのPh.D.課程にいたただけでは日本のアカポスに着くのに求められる条件を満たせない可能性があること
- **アメリカと日本のアカポスの両方を天秤にかけている人**：両国の就職で求められるものが違うこと
- **アメリカの民間企業に就職したい人**：さまざまなビザの種類、Optional Practical Training、グリーン・カード